

ニコデモは、ファリサイ派と言われるユダヤ教の指導的立場にあるグループに属し、ユダヤ教の教師(ラビ)でした。またユダヤの最高議会サンヘドリンの議員でもありました。彼は社会的地位も、人望も、教養もある人だったと思われます。そのような人が、夜に人目を忍んでイエス様の所を訪ねて来たのです。「どうしたら神の国に入ることが出来るのか」そのことを聞きたくて。

イエス様は答えます。「はっきり言うておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない」(3節)と。「新たに生まれなければ」とは、新生の必要性を教える言葉です。そして「新しく」という言葉は「上から」とも訳せる言葉です。したがって、「新たに生まれなければ」とは、上から、つまり「神様によって生まれなければ」とも訳せます。ですから、ここで言われている新しい生まれ変わりというのは、神様によって生まれることであり、かつ今までになかった命に誕生することであることが分かります。

これに対してニコデモは問います。「年をとった者が、どうして生まれることができましょう。もう一度母親の胎内に入って生まれることができるでしょうか。」(4節)。

この問いは、イエス様の言葉を全く理解していないようにも見えますが、実は、そうでもないとも思えます。確かにニコデモは、イエス様の言われる「新たに生まれる」ということがどういうことかは、はっきりとは分かっていなかったでしょう。しかし、彼は熱心なユダヤ教徒であり聖書をよく知っている人でした。ですから、イエス様の言われたことに何となく察しはついたのでしょう。それゆえに、自分が新しく生まれ変わるほどに根本的に変わらなければならないということに対して、拒否したのです。「私は変わらないし、変わりたくない。そんなこと出来るはずがない。」彼はそう言ったのです。

そんなニコデモにイエス様は、「誰でも水と霊によって生まれなければ、神の国に入ることにはできない。」(5節)とされました。「水」とは、私たちが罪から洗い清めるためにイエス様が十字架で流してくださった血のことです。「霊」とは、私たちが神の子として造り上げるために、イエス様が遣わしてくださった聖霊のことです。つまり「水と霊」とは、イエス様が私たちが神の子とするために成し遂げてくださった救いの御業そのものなのです。イエス様の恵みと救いだけが、私たちが新しく生まれさせ、生き生きとした神の国の希望を得させてくださるのです。

ニコデモは「変わる」ということを自分の力、自分の努力によって変えなければならないと捉えていました。けれども、イエスさまはそうではないと言われるのです。私たちが自分の力で変わるのではなく、聖霊の力によって神様が私たちを変えてくださると言うのです。

けれども、ニコデモは言います。「どうして、そんなことがありえましょうか」と。イエス様は続けてこう語られます。「そして、モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられねばならない。それは、信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るためである」(14節)。

かつてイスラエルの民が荒野の過酷な旅に耐えきれず、神様とモーセを非難する罪を犯したことがありました。この時、神様は毒蛇を送り込まれ、それによって多くの死者が出ました。神様の怒りに触れた民は許しを請います。その時に民に示されたのが、「荒野で蛇を上げる」こと、つまり青銅の蛇を作らせ、それを旗竿の先に掲げさせたのです。そして神の言葉を信じて、青銅の蛇を見上げた者だけが「命を得た」と聖書は語っています。

青銅で出来た蛇は、十字架のイエス・キリストを示します。イエス・キリストの十字架によって私たちは死から解放されて、永遠の命を受けることができます。聖霊は、この十字架のキリストの犠牲によって私たちに豊かに与えられます。そして聖霊を受けた私たちは、イスラエルの民が荒野で旗竿の先に掲げられた蛇を見上げたように、イエス・キリストを信じることで「命を得る」ことができます。

この夜、ニコデモはイエス様の言葉を理解できないまま家路に就きました。けれども、彼はこの時の事をずっと心に留めていたことでしょう。この後、ニコデモは二度登場することになります。次にニコデモが登場する場面は、祭司長たちやファリサイ派の人たちがイエス様を捕らえて殺す計画を立てている場面です。その時、ニコデモは議会でイエス様を弁護したのです。でも、この時はまだ「イエスは救い主である」とはっきりと証する事はできませんでした。三度目に登場するのは、アリマタヤのヨセフと共にイエス様を埋葬する場面です。この時はもう夜ではありません。人目もはばからず、ニコデモはイエス様を信じる信仰者であることを公に証したのです。

初めてイエス様を訪ねた時のニコデモは、「新しく生まれ変わる」ということが理解できませんでした。二度目のニコデモはイエス様の弁護をしましたが、まだ及び腰でした。けれども、そのニコデモが今度は、失うことも恐れもせずイエス様の遺体を引き取り、埋葬したのです。イエス様によって蒔かれた種が、ニコデモの中で芽を出し、成長して実を結ぶまでになったのです。

自分の力で神の国に入れる、そう思っているときに信頼するのは「自分」であり、自己の力で生きています。けれども「人は聖霊によって生かされている」ということに気づいた人は、新しく生れ変わります。ニコデモは迷いながらもイエス様を求め続け、最後には新しく生まれることができたのです。